

授業科目名称 : 博物館教育論

授業コード : 01517

授業科目英文名称 : Museum Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
※中谷 大輔 (実務経験のある教員)			
展開方法	講義		
ナンバリング	CB212		
添付ファイル			
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標		評価手段・方法
専門力	博物館教育の諸理論を駆使した教育プログラムを企画することにより、専門的な実務能力を習得することができる。		授業参加度・態度 課題レポート
情報収集、分析力	PCやスマートフォンを使って情報を集約し、簡潔な資料を作成することで、課題を客観的に分析することができる。		授業参加度・態度 課題レポート
コミュニケーション力	表情が見えない資料を通して他者とのコミュニケーションを図ることにより、実用性のある企画書を作成することができる。		課題レポート
協働・課題解決力	他者が作成した資料に対する改善策の提案を通して、課題を設定し、解決に向けた批評をすることができる。		課題レポート
多様性理解力	利用者の文化的な背景や身体的特徴に配慮した教育手法を学ぶことで、多文化共生社会における博物館の役割を説明することができる。		授業参加度・態度 課題レポート
出席			受験要件
合計			100%

授業のねらい	博物館の教育機能に関する基礎的な能力を養うため、博物館教育の意義や理念を学び、実践に関する知識と方法を習得する。特に教育プログラムの企画及びプレゼンテーションに向けた情報収集と資料作成、第三者からの指摘への対応を通して、能動的に課題を解決する能力を養う。			
アクティブラーニングの類型	②、④、⑩、⑫			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	評価は、課題レポート60%、授業参加度・態度40%の配分で行なう。課題レポートは論理的でかつ独自の内容が含まれていることと実現性の高さを評価基準とする。なお、課題レポートに対するフィードバックを授業で行う。授業参加度・態度は発表や教員への質問の有無と聴講時及び課題レポート作成時の姿勢を評価基準とする。			
授業概要	長崎市恐竜博物館と佐賀県立宇宙科学館において教育普及活動に従事してきた教員が、学芸員に必要な知識として、博物館教育の意義や諸理論、歴史を概説し、多様な先進事例について紹介する。また、学習プログラムやミュージアムグッズの企画、他者の学習プログラムへの改善策の提案等、実務経験上必要な能力を課題レポートで評価する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。			
教科書・参考書・指定図書	教科書：特に指定しない。授業時の配布資料 参考書：青木豊・宇野光行編『博物館学史研究事典』雄山閣（2017）：博物館学全般の知識を補完する際に使用 大澤夏美『ミュージアムグッズのチカラ』国書刊行会（2021）：先行事例探索の際に使用 指定図書：柿崎博孝・宇野慶・高橋愛『博物館教育論』[改訂第2版]（2022）			
授業外における学修及び学生に期待すること	授業の中で学習プログラムやミュージアムグッズを企画してもらうことから、事前に先行事例を調べておくこと。また、博物館や図書館などの社会教育施設だけではなく、テーマパークや店舗等で行われるイベントやワークショップにも関心をもち、積極的に参加して、その経験を博物館の教育活動に応用してほしい。			
授業計画	回	テーマ	授業の内容	予習・復習
	1	博物館教育の意義	講座のガイダンスと博物館教育の意義を解説する。なかでも、博物館での学びについて、諸理論等を通して理解を深める。	博物館教育の意義の予習
	2	博物館教育の歴史	博物館の歴史を学び、現在の博物館の役割について考える。	第1回目の博物館教育の意義の復習と博物館教育の歴史の予習
	3	博物館の種類と環境	博物館の種類と特徴について概説する。また、実例を通して、博物館ができるまでの過程を解説し、博物館の環境について考える。	第2回目の博物館教育の歴史の復習と博物館の種類と環境の予習。
	4	教育プログラムの企画(1)	実例を通して、教育プログラムの作成方法を解説する。その後、関心のある博物館で実施したい教育プログラムについて企画する。	第3回目の博物館の種類と環境の復習と教育プログラムの予習。

5	教育プログラムの企画(2) (課題レポート第1回)	前回の講座で企画した教育プログラムを第三者が理解できる企画書を制作する。(課題レポートの提出)	第4回目の教育プログラムの復習と関心がある博物館で行われている教育プログラムの予習
6	展示の意義とICTの活用	多様な展示例とその効果について解説する。また、ICT活用のメリットとデメリットについて考える。	第5回目の教育プログラムの復習と関心がある博物館の展示の予習
7	ミュージアムグッズの意義 (課題レポート第2回)	実例を紹介するとともに、ミュージアムグッズ製作の流れを解説する。講座後半では、各自でミュージアムグッズを企画する。(課題レポートの提出)	第6回目の展示の意義とICTの活用の復習とミュージアムグッズの予習
8	博物館の評価	博物館に対する評価と教育活動の検証及び改善に向けた取り組みについて学ぶ。	第7回目のミュージアムグッズの復習と博物館の評価の予習
9	他者の教育プログラムへの改善策の提案(1)	第5回の講座で他者が作成した企画書(無記名)について改善策を提案する。なお、企画書の配布は教員がランダムで行う。	第8回目の博物館の評価の復習と自身の企画書の精査
10	他者の教育プログラムへの改善策の提案(2) (課題レポート第3回)	前回の講座で提案した改善案について、原案の作成者が理解できるように資料を作成する。なお、改善策の提案者の氏名は公表しない。(課題レポートの提出)。	第9回目の他者への改善策の復習及び自身の企画書の精査
11	博学連携と人材育成	博学連携の先行事例を紹介するとともに、次世代の博物館に係る人材の育成について考える。	第10目の他者への改善策の復習のと博学連携と人材育成の予習
12	地域振興とSDGs	博物館を介した地域振興について先進事例を紹介する。また、SDGsの達成に向けた博物館の役割について考える。	第11目の博学連携と人材育成の復習と地域振興とSDGsの予習
13	多文化共生社会における博物館教育	先進事例を紹介するとともに、多文化共生社会における博物館の役割について考える。	第12目の地域振興とSDGsの復習と多文化共生社会の予習
14	教育プログラムの改善(1)	他者から提案された教育プログラムの改善策について検討し、自身の企画書を精査する。	第13目の多文化共生社会の復習と自身の企画書の精査
15	教育プログラムの改善(2) (課題レポート第4回)	教育プログラムの企画書を仕上げる。また、講座全体を振り返り、博物館教育について考える。(課題レポートの提出)	第14目の自身の企画書の精査と博物館教育の全体的な復習